



### III 平城宮跡等の調査概要

表29 2016・2017年度 都城発掘調査部(平城地区)発掘調査一覧

調査次数	調査地区	遺跡	調査期間	面積	調査地	担当者	調査要因	掲載頁
(2016年度)								
581次	6AFF-C	平城京左京二条二坊十一坪	2017.1.16~1.20	21m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	鈴木智大	住宅建設	212
582次	6BFO-E	平城京左京一条二坊十坪	2017.2.13~3.3	100m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	鈴木智大	宅地造成	214
583次	6AFC-G	平城京左京一条二坊十坪	2017.1.30~2.15	39m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	鈴木智大	住宅建設	217
(2017年度)								
584次	6ALQ	平城宮東院地区	2017.2.6~5.29	1103m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	庄田慎矢 山藤正敏	学術調査	171
585次	6ACD	平城宮第一次大極殿院	2017.4.10~7.27	426.5m <sup>2</sup>	奈良市佐紀町	山本祥隆	学術調査	198
586次	6SNY	中山瓦窯	2017.4.17~4.20	57.5m <sup>2</sup>	奈良市中山町	海野 聰	住宅建設	222
587次	6ALQ	平城宮東院地区	2017.4.24~4.26	60m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	国武貞克	住宅建設	196
588次	6AGA	平城京右京一条二坊四坪	2017.6.5~6.15	42m <sup>2</sup>	奈良市二条町	山藤正敏	庁舎建設	220
589次	6BTD	東大寺東塔院	2017.7.25~11.10	598.5m <sup>2</sup>	奈良市雜司町	芝康次郎	学術調査	224
590次	6BKF	平城京左京三条七坊	2017.7.26	40m <sup>2</sup>	奈良市登大路町	岩戸晶子	防災工事	168
591次	6ASB	平城宮北方遺跡	2017.9.4~9.6	15m <sup>2</sup>	奈良市佐紀町	岩戸晶子	住宅建設	168
592次	6ALB	平城宮東北官衙地区	2018.2.14~2.27	154m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	丹羽崇史	住宅建設	168
593次	6ALQ	平城宮東院地区	2017.10.2~2018.1.31	969m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	小田裕樹	学術調査	183
594次	6BSD-P	西大寺旧境内	2017.11.6~11.7	8.4m <sup>2</sup>	奈良市西大寺小坊町	鈴木智大	住宅建設	228
595次	6ALQ-H·I 6ALD-F·G	平城宮東院地区	2018.1.22~継続中	1512m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	桑田訓也	学術調査	168
596次	6BFK	法華寺旧境内	2018.1.10~1.18	52.3m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	丹羽崇史	住宅建設	168
597次	6BSD	西大寺旧境内	2018.2.20~3.30	155.6m <sup>2</sup>	奈良市西大寺小坊町	浦 蓉子	住宅建設	168

表30 2017年度 都城発掘調査部(平城地区)小規模調査等の概要

調査次数	遺跡	調査の概要
590次	平城京左京三条七坊	既存建物中庭部分における屋外スロープ増設と樹木移設にともなう事前調査。調査地は、興福寺旧境内北辺にあたり、興福寺の有力五院家の一つ、喜多院の敷地があった場所である。現地表下0.2~0.8mを掘削したが、いずれも現代造成土内に収まり、遺構・遺物は確認されなかった。
591次	平城宮北方遺跡	個人住宅にともなう発掘調査。南北5m、東西3mの調査区を設定した。現地表下0.5~0.7m、標高76.1m~76.5mの地山(明褐色及び明黄褐色礫土)直上で遺構面を検出した。小土坑を検出したが、市庭古墳に関わる古墳時代の遺構や、奈良時代など古代の遺構と認識しうるものは検出されなかった。
592次	平城宮東北官衙地区	個人住宅建設にともなう事前発掘調査。調査区は、南北2m、東西7mの東区、南北11.8m、東西16.5mのL字状の調査区からなる西区に分かれる。東区は現地表下0.3~0.4m、標高71.8~9m付近で遺構検出をおこない、南北溝、土坑等の遺構を確認した。西区は現地表下約0.2m、標高71.9~72.0m付近で遺構検出をおこない、調査区の一部でさらに掘り下げをおこなった。
595次	平城宮東院地区	第584次および第593次調査区の東側に重複させて、南北42m、東西36mの調査区を設定した。新規発掘部分の面積は1,122m <sup>2</sup> である。現地表面下0.7~0.9m、標高66.8~66.9mの整地土上面で遺構検出をおこない、奈良時代の複数時期にわたる掘立柱建物や溝などを検出した。調査は2018年度に継続調査中である。
596次	法華寺旧境内	個人住宅建設にともなう事前発掘調査。南北5.5m、東西9.5mの調査区を設定した。現地表下0.5~0.6m、標高61.5~61.6m付近において遺構検出をおこない、東西溝、南北溝、土坑等の遺構を確認した。
597次	西大寺旧境内	共同住宅建設にともなう事前調査。調査区は東西8.5m、南北18.3m。現地表面下0.7~0.8m、標高約74.9mの地山面で遺構検出をおこなった。中世の溝および西大寺の幢竿遺構の可能性のある掘立柱の柱根を確認した。

表31 2017年度 都城発掘調査部(平城地区)現場班編成 ※総担当者

春	夏	秋	冬
国武 貞克(考古第一)	※芝 康次郎(考古第一)	庄田 慎矢(考古第一)	浦 蓉子(考古第一)
※山藤 正敏(考古第二)	神野 恵(考古第二)	※小田 裕樹(考古第二)	丹羽 崇史(考古第二)
今井 覧樹(考古第三)	岩戸 晶子(考古第三)	馬場 基(史 料)	林 正憲(考古第三)
山本 祥隆(史 料)	海野 聰(遺 構)	鈴木 智大(遺 構)	※桑田 訓也(史 料)
総括:副部長 渡邊 晃宏		写真担当:企画調整部写真室	